

豪ドルは貿易戦争と雇用統計に注目

- ◆米中の貿易戦争はチキンゲーム、ブレーキは効かないか
- ◆豪経済指標は雇用統計に注目が集まる
- ◆依然として新興国に不安要素多く、ZARの上値は限定的か

予想レンジ

豪ドル円 79.00-84.00 円

南ア・ランド円 7.65-8.60 円

7月16日週の展望

豪ドルは、来週も方向感のない動きとなりそうだ。米中間の貿易戦争は引き続き懸念される。トランプ大統領はさらなる対中関税措置を計画しており、中国との妥協点が見出せていない。中国商務省は「中国は報復せざるをえない」と発言しているように、米中のチキンゲームは両国ともブレーキを踏むことなく、より激化する可能性がある。その場合は豪ドルの売り材料になり、対ドルでは再び年初来安値を更新することも考えられる。来週は国内要因にも目を配りたい。特に19日に発表される6月の雇用統計には注目が集まる。5月は、失業率は5.6%から5.4%に改善されたが、就業者数は前月比1万2000人増と市場予想を下回り、4月分も下方修正されて豪ドルの売り材料になった。就業者数中では非常勤就業者数は増えたが、正規雇用者数は減少した。今月も正規・非正規の詳細を含めて、どのような結果が出るか注目される。17日には7月3日に開かれた豪準備銀行(RBA)政策決定会合の議事要旨が公表される。声明文では、中国経済について「引き続き堅調に成長」という文言が変わらず、懸念されている米中貿易摩擦については、前回の「米国の貿易政策が懸念される」から「世界的な見通しの不確実性の一つが米国の貿易政策から来ている」に変わった程度だった。貿易問題や中国経済についてより突っ込んだ話し合いが行われていたか注目される。また「豪ドルは少し下落したが、過去2年間の範囲内にとどまっている」とされた文言のほかに為替について言及があったのかにも注意したい。

南ア・ランド(ZAR)は、今週は底堅かったが上値は限定的か。トルコリラ(TRY)は、強権を握ったエルドアン大統領が利下げを示唆していることで、対ドルでは今週も史上最安値を更新した。ドルに全体的に資金がシフトしていることを考えると、同じ新興国通貨のZARもドルに対して弱含む可能性が高い。来週は南アから6月の消費者物価指数や小売売上高が発表される。また19日には南ア準備銀行(SARB)が政策金利を発表する。

7月9日の回顧

豪ドルは方向感のない動きだったが、対円では買い戻し優勢だった。先週末に米中の貿易関税合戦が始まったものの、NY株式市場が堅調だったため、週初は中国株を筆頭に株価が堅調に推移した。これを受けて豪ドルもじり高に。しかし11日早朝に米国が2000億ドル相当の対中関税リストを公表したことで、豪ドルは一時、上げ幅を全て削った。中国通信大手ZTEに対して米国が制裁を見直すとしたこと週後半は中国株が上昇し、豪ドルは再び買い基調になった。中国のCPIは前年同月比で1.9%上昇と市場予想と変わらない結果だった。PPIは前年同月比で4.7%となり、市場予想の4.5%を上回った。

ZARも堅調だった。トルコの第2次エルドアン政権が始動したが、独裁政治の方向で進んでいることでTRYが売られ、ZARも連れ安になった。しかし株式市場が堅調になったことや、5月の南ア製造業生産が前月比+1.5%とマイナスからプラスに転じたことで下げ幅を削り上昇した。(了)